

平成23年度
(平成22年度分)

事務事業評価票

A 一般型

No. 1030121

重点評価

I 事業の概要

I-1 事業の概要

事務事業名 ホムヘーシ'アト'リス	大型ごみのリユースモデル実施	所管局部課等	環境政策局循環型社会推進部循環企画課
		(連絡先)	213-4930
		(評価票作成者)	循環企画課長 牧村雅史

22決算額 (千円)	23予算額 (千円)	今後の方向性	24予算額 (千円)	目標達成度評価
-	5,000	現状のまま継続	14,000	指標: リユース成立件数
業務運営方法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 部分委託 <input type="checkbox"/> 部分補助等 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 全部補助等				かなり悪い 悪い 普通 良い かなり 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% 110% 120% H20年度 H21年度 H22年度
実施根拠 (法令, 条例, 規則, 要綱等)		委託(補助)先の名称, 委託(補助)の内容 (名称) ①洛北運輸株式会社 ②フィールドアロー株式会社 ③伏見クリエイト株式会社 (内容) ①大型ごみの収集運搬 ②家具の修理, 在庫管理, 展示販売 ③不要家具の再資源化処理		事務事業の性格 <input type="checkbox"/> 義務的事業 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的事業 類型 11 その他
開始時期	平成 23 年度	終了(予定)時期	平成 24 年度	会計区分 <input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別会計

事業概要	対象	(誰を, 何を) 大型ごみとして排出され使用可能なもの。
	活 動 内 容	(どのような手段で) 大型ごみの回収時に, 使用可能な家具の修理等を行い, それを市民に提供する。なお, 今回はモデル実施のため, 期間や地域を限定して行う。
	目 的	(どのような状態にしたいのか) 大型ごみリユースの全市拡大に向け, 各段階での課題を把握するとともに, 効果的な手法についてシステムを構築する。

I-2 投入量

年間経費等推移 (千円)	No.	区分	H20年度決算	H21年度決算	H22年度決算	H23年度予算	H24年度予算
	①	事業費 (千円)				5,000	14,000
		報償費				216	
		需用費				454	433
		役務費					56
		①' 委託料	大型ごみの収集運搬, 家具の修理, 展示販売, 在庫管理等				4,330
	②	委託料が事業費に占める割合 (①' ÷ ①)	(%)			86.6%	96.5%
	③	人件費 (24年度は見込)	(千円)			6,337	6,116
		職員(課長級)	(人)			0.03	0.10
		職員(課長補佐級, 係長級)	(人)			0.29	0.19
		職員(係員)	(人)			0.37	0.37
			嘱託職員等人件費	(千円)			
	④	年間経費 (①+③)	(千円)			11,337	20,116
	⑤	特定財源 (市税等の一般財源以外)	(千円)			5,000	14,000
国庫・府支出金		(千円)					
受益者負担分(使用料, 手数料等)		(千円)				6,200	
その他(基金繰入金)		(千円)			5,000	7,800	
⑥	京都市年間負担経費 (④-⑤)	(千円)			6,337	6,116	
⑦	受益者負担率 (受益者負担分÷④)	(%)			0.0%	30.8%	

平成23年度
(平成22年度分)

事業名 大型ごみのリユースモデル実施

Ⅱ 評価結果

Ⅱ-1 市民と行政の役割分担評価

評価実施年度 **23** 年度

A 公共性	(公益性)	(必需性)	『公共性評価』 必需 個人消費性(私益) / 共同消費性(公益) ②必需・個人消費性 / ①必需・共同消費性 ③選択・個人消費性 / ④選択・共同消費性 選択	
	<input checked="" type="checkbox"/> より多くの市民に提供されるサービス <input type="checkbox"/> 特定の個人又は集団に提供されるサービス	<input type="checkbox"/> 日常生活に必要不可欠なサービス <input checked="" type="checkbox"/> 日常生活に必要不可欠でないサービス		
B 行政関与の妥当性	関与の妥当性の程度(高・中・低) 高		(判断理由) 大型ごみとして排出される家具の中には、使用可能なものが少なくない。行政が関与することで、資源の有効利用及び「物を長く大切に使う」意識が市民へ浸透することを図る。	
C 受益者(サービスを受ける側)負担の妥当性	(負担を求める必要性) 有	(見直しの必要性) 有	(判断理由) 特定の個人が、簡易的な修理及び清掃された家具を引取るため。	
D 実施主体(サービスを行う側)の妥当性	(政策性)	(行政専門性)	『実施主体の妥当性評価』 行政専門性 / 政策形成・意思決定 ②経常的・行政専門性 / ①政策的・行政専門性 ③経常的・一般専門性 / ④政策的・一般専門性 一般専門性	
	<input type="checkbox"/> 政策的意思決定を必要とするサービス <input checked="" type="checkbox"/> 経常業務の度合いが高いサービス	<input type="checkbox"/> 行政上の専門知識を必要とするサービス <input checked="" type="checkbox"/> 行政上の専門知識を必要としないサービス		
その他	事務事業実施上の課題、環境等外部要因の変化等	受付、収集、保管、目利き、修理、引渡し、周知等の各段階におけるノウハウの蓄積が十分ではなく、モデル実施によって、リユース可能量、市民ニーズを把握するとともに、ヒアリング等を通じて課題と解決策を検討する。		
	当該事務事業を廃止・休止した場合の影響	大型ごみのリユースができなくなる。		
	どのような状態になれば事務事業の廃止を検討するのか	大型ごみのリユースに向け、各段階の課題と解決方法を検討し、本格実施の準備が整ったとき。		
	他の自治体の動向	<取組・見直し状況等> 札幌市、千葉市、相模原市、神戸市、広島市等、既に多くの自治体で大型ごみリユースが実施されている。		

II 評価結果

事業名 大型ごみのリユースモデル実施

II-2 業績評価

A 目標達成度	指標名	区分	単位	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
指標1	リユース成立件数	目標値 …①	件				100	500
		実績値 …②	件					
		目標達成度 (②÷①)	%					
	指標の種類	増加することが良いとされる指標		評価				
指標2		目標値 …①						
		実績値 …②						
		目標達成度 (②÷①)	%					
	指標の種類			評価				
				総合評価				

指標の選択理由		目標値設定の考え方	
指標1	大型ごみのリユースに対する市民意識の推移を把握することができるため。	同様な方式で大型ごみリユースを実施している札幌市の実績を基に設定。ただし、23年度のモデル実施を通じて24年度の目標値を精査する。	
指標変更の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	指標名	適用年度 単位
指標2			
指標変更の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	指標名	適用年度 単位
分析	<実績値の変動理由等>		

B 効率性	No.	区分	単位	H20年度	H21年度	H22年度
	①	リユース成立件数	件			
	②	年間経費(事業費及び人件費の合計額)	千円			
	③	単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位			
	④	単位当たり経費変動率				
			評価			
分析	<コスト変動の理由等>					

C 市民参加度	企画段階 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 <input type="checkbox"/> 無	<現状分析, 今後の方針等> 事業者や購入者からの意見を取り入れ, 本格実施に向けた検討を行う。		
	実施段階 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 <input type="checkbox"/> 無			
	評価段階 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 <input type="checkbox"/> 無			
D 市民満足度	<調査の有無> <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない		<調査結果, 現状分析等>	
	<調査方法>	<調査時期>		
E 環境保全及び環境負荷軽減の要素	<input checked="" type="checkbox"/> 環境 <input type="checkbox"/> 関連 <input type="checkbox"/> 一般	<現状分析, 今後の方針等> 京都市循環型社会推進基本計画(2009-2020)を推進するため, リユースを推進し, 資源の有効利用を図り, 「モノを長く大切に使う」意識の市民への浸透を図る。		

平成23年度の実施状況 市内約1割のモデル地域を対象に, 大型ごみとして出される「家具」を分別収集し, その内リユース(再使用)可能なものを修理, 清掃して市民に販売するモデル実験を平成23年11月に開始した。リユース家具の展示販売は, 平成24年1月7日から開始し, 3月25日までの土曜日及び日曜日に実施する予定である。

市会・監査・外部機関等からの指摘

III 今後の方向性

現状のまま継続	(今後の方向性の理由及び具体的な内容) 大型ごみのリユースを推進するため, 大型ごみの家具のリユースシステムの構築に向けた取組を進める。
---------	---